

# 2015 年度 学校自己評価報告書

常翔学園中学校・高等学校

学校自己評価委員会

## I. 学校自己評価の目的

本校の教育活動等の成果を検証し、必要な支援・改善を行うことにより、生徒がより良い教育活動等を享受できるよう学校運営の改善と発展を目指し、教育水準の向上と保障を図ることが重要である。

そのため、学校の教育活動その他の学校運営の状況について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について評価することにより、教職員が現状や課題意識を共有し、学校として組織的・継続的な改善を図る。

## II. 実施方法

実施日：2016年1月末日

1月20日（水）アンケートサイトにて質問配付〔資料1〕

1月30日（土）入力締切

調査対象：本校教職員全員（非常勤講師、助手、臨時要員は除く）

評価項目：1. 学校運営 2. 教育内容 3. 生徒指導・支援 4. 教育研修・資質向上の4分類について、それぞれに評価の観点項目を設けて評価を行った。〔資料1参照〕

なお、評価結果を検討するにあたり参考データとして「職域」「本学園の勤務年数」の調査（基礎調査）も行った。

評価方法：1.よくあてはまる 2.ややあてはまる …… プラス評価  
3.あまりあてはまらない 4.まったくあてはまらない …… マイナス評価  
の4段階で行なった。

集計結果については、人数と割合で示している。さらに

- 1.よくあてはまる（10点）
- 2.ややあてはまる（5点）
- 3.あまりあてはまらない（-5点）
- 4.まったくあてはまらない（-10点）

とし、それぞれの人数の割合を掛けたものの総和を「加重」欄にグラフ化して示した。

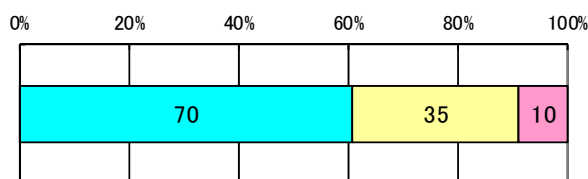
\*今年度から、各部署ごとにPDCAを実施することとした。そのために以前の質問項目を整理し、部署ごとにまとめなおした。また各項目の評価・分析等も該当する部署が検討し、記入した。

## III. 2015年度の「教育の目標」と「重点目標」

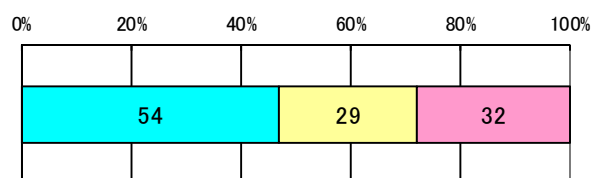
教育の目標	本校の教育理念を浸透させ、「自主・自律」の精神と幅広い「職業観」を養う。
今年度の重点目標	・「あいさつ・掃除・身だしなみ」の徹底 ・目的を持った進路選択と進学実績の向上 〔 学園内大学進学 30% 国公立大学合格数 50人 関関同立大合格数 160人 〕

#### IV. 基礎調査（職域、本学園の勤務年数）

職域	人数	割合 (%)
1. 専任教諭	70	60.9%
2. 特任教諭	35	30.4%
3. 事務職員	10	8.7%
合計	115	100.0%



本学園の勤務年数	人数	割合 (%)
1. 10年未満	54	47.0%
2. 20年未満	29	25.2%
3. 20年以上	32	27.8%
合計	115	100.0%

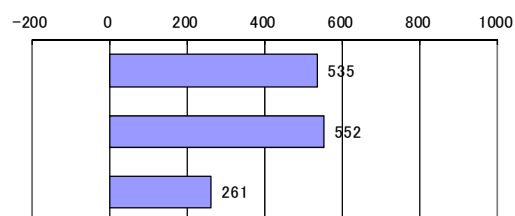
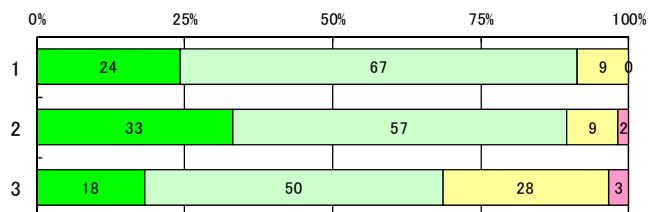


#### V. 自己評価報告

##### 1. 学校運営に関すること①

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合 (%)				加重	次年度目標
			1	2	3	4	1	2	3	4		
建学の精神・愛校心	1	建学の精神が教職員、生徒、保護者によく浸透し、在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	28	77	10	0	24	67	9	0	535	550
中学校・高校の経営	2	中学校・高校の予算、決算の仕組みや財務状況を意識した学校運営をしている。	38	65	10	2	33	57	9	2	552	600
学園の各組織	3	評議員会、理事会など、学園の各組織の役割や機能について理解している。	21	58	32	4	18	50	28	3	261	300



##### 【評価と次年度の目標について】

「建学の精神・愛校心」は新入生オリエンテーションでの自校史教育、ギャラリーでの歴史資料展示、入試説明会での紹介、昨年度開設した常翔歴史館に加え、歴史館館長の益山先生の本校「夢発見ゼミ」での講演等により、高い評価を維持している。

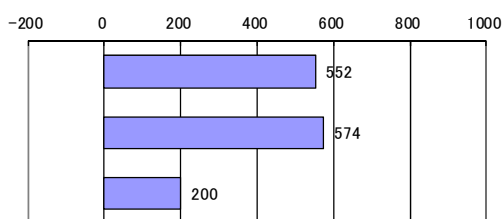
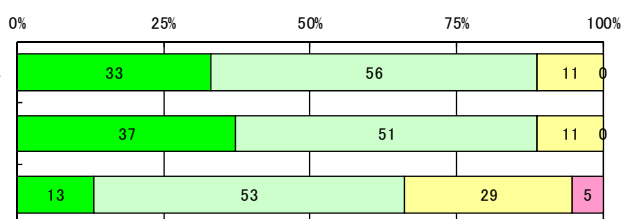
ただし、「2.ややあてはまる」に比べ「1.よくあてはまる」が少ない。今後の施策としては、初期教育だけでなく3年間・6年間を見据えた継続的な教育や常翔歴史館を活用した授業の組み立てが有効と思われる。

「中学校・高校の経営」については、財務状況の報告会の開催等によりこの数年で評価が大きく上がった項目である。継続して実施してきた効果が徐々に表れてきている。一方、「学園の各組織」については、徐々に評価が高まっているものの、まだ理解度が低い。この項目については、特に勤続年数10年未満の教職員と10年以上の勤続年数で差が大きい。若い教員を対象とした勉強会も含め、地道な活動を続けて私学教員としての自覚と経営感覚を養っていきたい。

## 学校運営に関すること②

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	次年度目標
			1	2	3	4	1	2	3	4		
教職員の連携	4	事務職を含む教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて業務が遂行されている。	38	64	13	0	33	56	11	0	552	600
学校間連携	5	学園のスケールメリットを生かし、他の設置校と協力し、魅力ある学校作りを実施している。	43	59	13	0	37	51	11	0	574	600
会議の有効性	6	必要かつ適切に会議が設定され、有効で効率的な議論が行われている。	15	61	33	6	13	53	29	5	200	250



### 【評価と次年度の目標について】

「教職員の連携」については、昨年までの「教員・教科間連携状況」と「教員と事務職員の連携状況」をまとめたものである。この2年連続で評価が上がっている。サイボウズ等による連絡や情報共有の徹底、進学に向けての定期的な成績分析会の実施等の効果と思われる。年々情報量が増え内容も複雑化しているが、次年度はタブレットを導入することになるのでその効果が期待される。

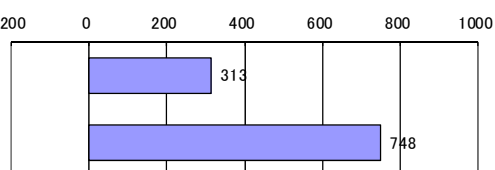
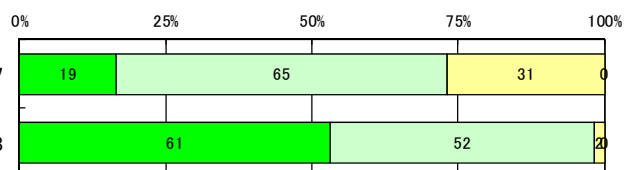
「学校間連携」は今年初めて加えた項目であるが、プラス評価 88、加重評価 579 はまずまずの評価かと思われる。中高大連携機構が開設され、「夢発見ゼミ」や「総合サイエンス」における中大連携が実施されているが、年々内部進学者が減少する中で今後さらに重要視すべき項目と思われる。

「会議の有効性」は今年度評価が下がっている。放課後開催とならざるを得ない会議や長時間に及ぶ会議も多く、教員の負担が年々増えていることが原因と思われる。会議が連絡調整で終始し、発展的な内容を検討する場に至っていない面が一部見られることも原因として考えられ、まだまだ改善の必要がある。

## 学校運営に関すること③

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	次年度目標
			1	2	3	4	1	2	3	4		
地域交流	7	地域の自治体や住民との交流ができています。	19	65	31	0	17	57	27	0	313	350
授業等公開状況	8	保護者などに授業や発表会を公開する機会があり、積極的に広報されている。	61	52	2	0	53	45	2	0	748	800



### 【評価と次年度の目標について】

地域交流は昨年よりも向上したものの、プラス評価で 74、加重評価で 313 と評価が低い項目

である。生徒たちの地域清掃活動、旭区との連携による高校2年一貫コース・スーパーコース・特進コースでの総合的な学習「Osaka City Project」や中学校総合サイエンスでの「地域研究」、地元商店街の催しへの協力、さらに地元中学校を招いての交流試合の開催などにより、年々少しずつ向上している。しかし、まだ学校を挙げての取組みとなっておらず、いかにして教職員、生徒に地域貢献に関する積極的な意識が根付かせるかが課題である。

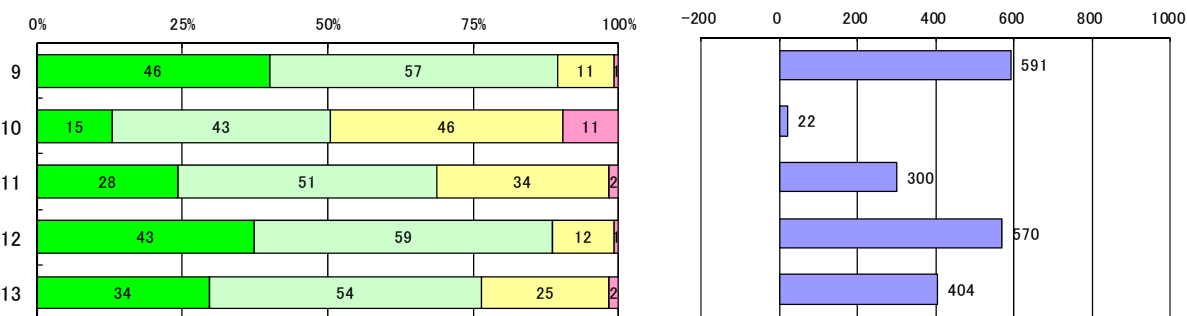
「授業等公開状況」は非常に高い評価を維持している。公開授業や成果発表行事への保護者参加率の向上など、学校生活に関する情報公開についても高い評価が得られた。特に体育祭については京セラドームでの開催により、保護者の参加がここ数年で著しく増加した。しかし、ホームページの更新状況や携帯電話連絡網サービスの配信回数には担当部署やコース、学年でまだ差が見られる。

今後も定期的なホームページの刷新や内容の改善を図るとともに、公開行事については保護者のさらなる参加率向上を目指したい。

#### 学校運営に関すること④

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	次年度目標
			1	2	3	4	1	2	3	4		
教員の資質向上	9	授業力向上のため、教員間で授業を公開し、教科会などで意見交換を行っている。	46	57	11	1	40	50	10	1	591	600
初任者のサポート状況	10	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制が整備されている。	15	43	46	11	13	37	40	10	22	200
校内外の研修	11	校内外において、各教員が計画的、積極的に研修に参加し、教員間で情報を共有している。	28	51	34	2	24	44	30	2	300	350
新しい教育への取り組み	12	ICT教育、アクティブ・ラーニング、キャリア教育など、新しい教育に学校全体で意欲的に取り組んでいる。	43	59	12	1	37	51	10	1	570	600
読書推進	13	図書館の利用促進を図るなど、読書指導に取り組んでいる。	34	54	25	2	30	47	22	2	404	450



#### 【評価と次年度の目標について】

「教員の資質向上」については、従来から授業アンケートに基づく授業改善や、大学も含めた教員間での授業公開を実施し、資質向上への積極的な働きかけを行ってきたこともあり、評価が高い。

しかし、学校に求められる内容も多様化している中で教員の負担も年々増加し、自己研鑽のための外部研修会への参加や新任教員への指導に時間が取りにくくなっている現状がある。そのため、「初任者のサポート状況」「校内外の研修」は評価が低い。特に、半数を占める本校勤続年数10年未満の教員からはマイナス評価の方が多く、勤続年数・職域によって評価は大きく異なる。彼らの多くは期限付きの教員であるため、サポート体制や雇用に関しては大きな不安を抱いている。私学経営上の観点から改善すべき項目であるが、早急に解決は難しく、学園全体で取り組むべき課題でもある。校内研修会は時間的な制約もあり実施回数は限られているが、テーマを厳選

して実施しているため効果的な内容となっている。

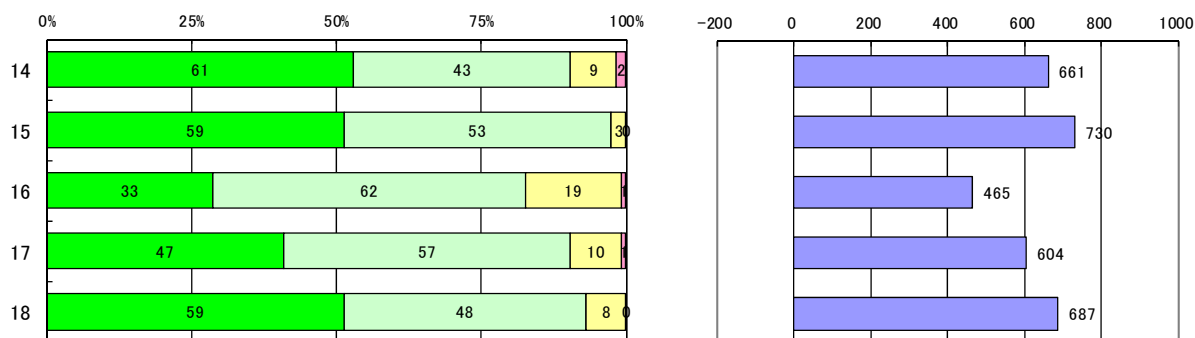
今回新規で追加した「新しい教育への取り組み」の項目は、本校がすでに取り組んでいるキャリア教育や、現在国を挙げて取り組んでいるICTの教育への利活用、アクティブ・ラーニングなどがこれにあたる。本校は特にキャリア教育に力を入れており、それが学校の特色となっているためこの項目は評価が高い。ICT教育については次年度からのタブレットの導入に加え、アクティブ・ラーニングと大変相性が良く、今後の発展が期待される。

「読書推進」については今回一番大きく評価が下がってしまった項目である。昨年度と変更点がないので、特に原因は考えられないが、今後さらに改善していきたい。

## 2. 教務、教科指導に関すること

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	次年度目標
			1	2	3	4	1	2	3	4		
学習指導要領の対応状況	14	教育課程は学習指導要領に沿って編成されており、各教科のシラバスに反映している。	61	43	9	2	53	37	8	2	661	700
学習指導	15	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	59	53	3	0	51	46	3	0	730	750
人権教育	16	人権尊重に関する課題や指導方法を研究し、生徒の意識を高める教育を行っている。	33	62	19	1	29	54	17	1	465	500
国際理解・交流	17	他国の歴史・文化を理解し、積極的に海外の人々や学校と交流をしている。	47	57	10	1	41	50	9	1	604	650
スポーツ・芸術文化	18	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	59	48	8	0	51	42	7	0	687	700



### 【評価と次年度の目標について】

「学習指導要領の対応状況」については、昨年度と少し評価項目が変わっている点はあるものの全体としては評価が下がっている。これは、新テストへの対応や次期学習指導要領の改定に向けたカリキュラム研究などについて、教職員の意識が高まっていることが原因と考えられる。研修会への積極的な参加を勧めたい。

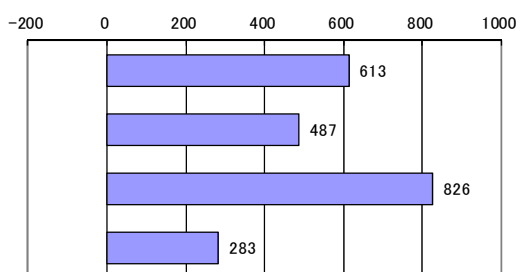
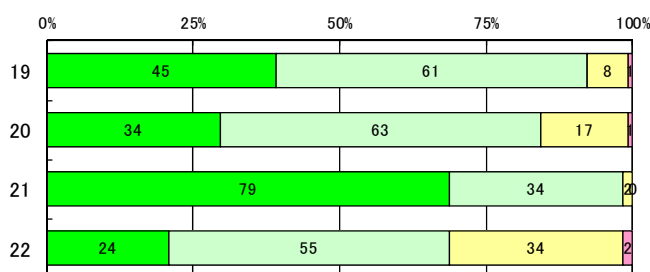
「学習指導」「スポーツ・芸術文化」については、例年通り、評価が高かった。「人権教育」に関しては、特に大きな変化が見られなかった。

「国際理解・交流」について、プラス評価が大きく向上した。これは、初めての海外修学旅行の実施(台湾・豪州)や文理進学コース2年生対象のキャリアプログラム(ヤングアメリカンズ)、本校と実質的に姉妹校関係にある豪州・カシミアカトリックカレッジの教員、生徒達の来日など、生徒、教職員共に国際交流を実感できる行事が増えたことが原因と思われる。このことが、英検取得率やGTECの得点率の向上など、生徒の英語力強化にも繋がっている。来年度は従来実施している英国インターナショナルプログラムと豪州語学研修に加え、セブ島英語研修の追加を計画している。また、グローバルセミナーを実施するなど、生徒達が国際理解・交流のできる機会

を積極的に増やしていきたい。また、2回目の海外修学旅行（豪州、メルボルン及びケアンズ）についても、今年度の反省を生かし、更に充実したものにしたい。

### 3. 生徒指導に関すること①

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	次年度目標
			1	2	3	4	1	2	3	4		
指導方針の一貫性	19	教員間や生徒の家庭とも連携し、統一した生徒指導を行っている。	45	61	8	1	39	53	7	1	613	650
生徒会活動	20	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	34	63	17	1	30	55	15	1	487	500
学校行事	21	体育祭、文化祭などの学校行事を活発に行っている。	79	34	2	0	69	30	2	0	826	850
ボランティア	22	地域の自治体や住民と連携し、ボランティア活動を活発に行っている。	24	55	34	2	21	48	30	2	283	300



#### 【評価と次年度の目標について】

「ボランティア」以外はどの項目も評価が上がっている。生徒指導部を中心に長期にわたり積み重ねてきた指導経験や時流に応じた柔軟な指導姿勢が今回の評価に繋がっていると思われる。生徒指導に関しては、学園の理念にある「生徒」「保護者」「卒業生」「教職員」の四位一体を基に情報共有や連絡体制も整備され、良い方向に向かっている。しかし、生徒を取り巻く社会環境の変化は激しく、教職員が共通理解のもとに一丸となって取り組む姿勢がさらに必要と思われる。

「学校行事」に関しては球技大会、体育祭、マラソン大会などのスポーツ活動、文化祭、芸能鑑賞、各種の授業成果発表会や講演などの文化活動が活発なものと高く評価されている。

これら大きな学校行事での取り組みに加え、今年度は美化活動、ボランティア活動に力を入れた。しかし、生徒たちが生徒会活動に積極的に参加しようという気運がまだまだ少なく、一部の生徒会役員や教員に頼る現状が見られる。

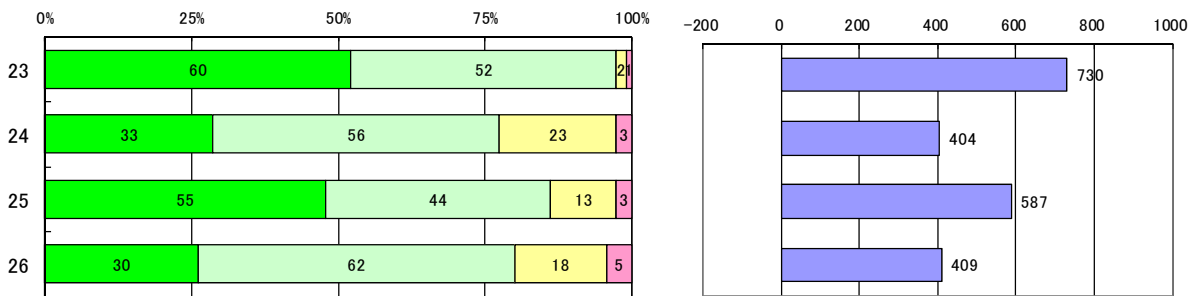
また、地域清掃や淀川ハーフマラソン大会へのボランティア参加者が増えてきたが、「ボランティア活動」の評価は下がった。これらに関しては、中高大が連携した全学園的な活動に発展させていきたい。

今後は、さらに中学校生徒会活動を活性化し、中高一体となった活動を構築する必要がある。生徒会の活動状況を広く発信し、学外活動にも目を向けて学校全体の活性化を図っていきたい。

## 生徒指導に関すること②

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	次年度目標
			1	2	3	4	1	2	3	4		
いじめ防止対策	23	生徒の細かな変化を教員間で共有し、いじめの早期発見、防止に努めている。	60	52	2	1	52	45	2	1	730	750
環境問題	24	生徒に清掃、校内美化を取りまとめることによって、環境問題にも関心を持たせている。	33	56	23	3	29	49	20	3	404	450
部活動	25	生徒が心身共に成長するよう、積極的に部活動を推進している。	55	44	13	3	48	38	11	3	587	600
情報モラル指導	26	SNSの利用に伴う責任等、情報のモラル面の教育に十分に取り組んでいる。	30	62	18	5	26	54	16	4	409	450



### 【評価と次年度の目標について】

本校は「いじめ防止委員会」を中心として、いじめ防止に努めてきたが、今年度も「いじめに関するアンケート」の見直しなど全校あげて取り組んだため、いじめ防止に関しての評価は高い。

「環境教育」については、まだまだ評価が低く、意識向上ができていない。今年より廊下のゴミ箱を撤去し、教室での完全分別収集を行い、エコ活動の推進に努めた。このように校内清掃や美化に対する指導体制は整ってきているものの、それが生徒の自発的な行動や意識向上にまでは、繋がっていないことが伺える。継続した粘り強い指導が必要である。

「部活動」の評価は下がっている。部員たちの積極的な協力姿勢、指導者の献身的な取り組み、各種大会で上位成績を収めるなどプラス要因がある一方、部活動が一部の生徒に偏りつつあり、一般生徒の入部が減り、学力強化のための補講やカリキュラムによる活動時間の制限などにより、部活動を積極的に推進していると答え辛いのではないだろうか。100%部活動を積極的に推進している学校にしていきたい。

「情報モラル」に関しては、ネット社会のネット上での問題事象を未然に防ぐため、年間を通じてネットパトロールを民間業者に委託している。教職員や中学校保護者に対して「スマートフォン世代のコミュニケーションの実態」に関する研修会を開催し、正しい利用の仕方などの指導をした。

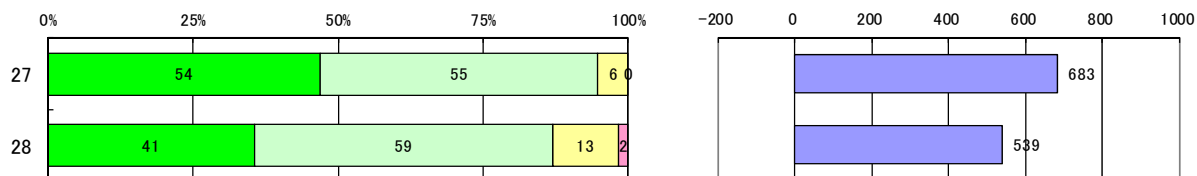
今年度はICT教育推進プロジェクトを設置し、さらなる情報機器の有効利用について、2016年度の導入を進めた。同時に、モラル教育が後手にならないような指導も強化していきたい。



#### 4. 進路指導に関すること

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	次年度目標
			1	2	3	4	1	2	3	4		
進路指導	27	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制を整備している。	54	55	6	0	47	48	5	0	683	700
内部進学	28	学園内大学と連携し、多くの生徒が学園内大学に進学できるよう指導に取り組んでいる。	41	59	13	2	36	51	11	2	539	550



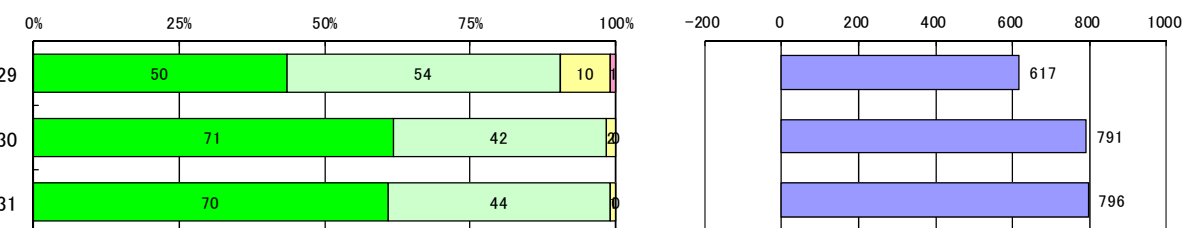
##### 【評価と次年度の目標について】

「進路指導」については、それぞれのコース目標に応じた指導体制が有効的に機能している。「内部進学」については、総合的な学習の時間を活用した「高大連携講座」や進路指導部主催の「大学体験」「学園内大学進学説明会」などを通じて、学園内大学を意識させる取り組みがあり、評価につながっていると思われる。しかし、今年度重点目標の内部進学30%の数字は達成が難しく、今後の課題として残る。引き続き、生徒一人ひとりの進路実現のために、生徒面談や進路関係行事などを通じ、細かな指導体制を充実させていきたい。

#### 5. 保健室に関すること

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	次年度目標
			1	2	3	4	1	2	3	4		
健康に関する指導	29	健康的な生活習慣をおくれるように指導している。	50	54	10	1	43	47	9	1	617	650
カウンセリング体制	30	不登校生徒や特別な配慮が必要な生徒の情報を教員間で共有し、必要に応じてスクールカウンセラーを軸めている。	71	42	2	0	62	37	2	0	791	800
危機管理への対応	31	防災訓練やAED講習会を実施し、学校の安全対策に努めている。	70	44	1	0	61	38	1	0	796	800



##### 【評価と次年度の目標について】

「健康に関する指導」に関しては、保健室を中心として時節に応じたポスター掲示や保健室便りによる啓蒙活動を行うだけでなく、担任は生徒の変化に対して注意をはらい、生徒の健康管理についてこまめに対応している。この分野については各家庭での協力が必要な部分も多く、保護者に対するホームページやメールサービスを活用した連絡など、学校と保護者が連携して取り組んでいきたい。

「カウンセリング体制」については、本校では不登校生徒や、特別な配慮が必要な生徒に関して、

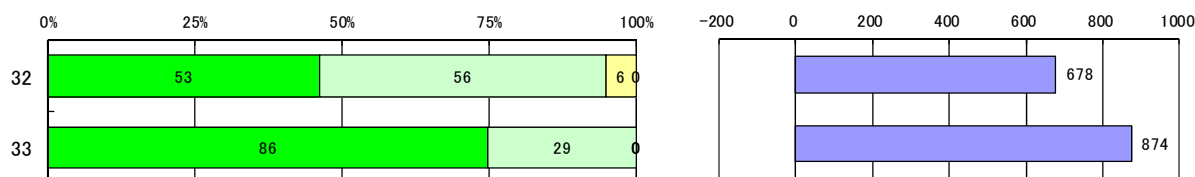
委員会で取り上げ、教員間で情報共有している。また、スクールカウンセラーの活用については生徒本人だけでなく、保護者も利用することが多くなってきている。今後も、教員・保護者・スクールカウンセラーが連携し、生徒に対するきめ細やかな対応とサポート体制の充実に取り組んでいきたい。

「危機管理への対応」に関して、先の大震災の教訓や東南海地震を想定して、本校でも防火・防災への意識が年々高まっている。今年度は火災を想定した避難訓練を実施し、年度ごとに火災や地震など状況を変えた訓練を実施している。全生徒用の防災用品の設置も完了し、校舎内の安全点検、AED講習会などが定期的に行われ、中学校では防災教育を実施するなど、これら一連の取り組みが評価されている。役割分担やマニュアルの整備、災害時行動ハンドブックや防災カードの作成なども評価に表れている。来年度も引き続き、災害や現場の状況に応じて対処できる柔軟な判断力を育成し、防火・防災体制をさらに向上させたい。

## 6. 募集活動に関すること

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	次年度目標
			1	2	3	4	1	2	3	4		
入試業務	32	受験生の安定確保を維持し、各コースに応じた学力を持った生徒を獲得している。	53	56	6	0	46	49	5	0	678	700
情報公開	33	学校ホームページなどを通して、本校の魅力や入試に関する情報を積極的に公開している。	86	29	0	0	75	25	0	0	874	900



### 【評価と次年度の目標について】

生徒募集については、中学と高校では大きく異なる。中学は募集人数（100名）を獲得することが最大の目標で、入学手続き後でも他校へ進学するケースが多々ある。中学入試では初日の受験者（殆どが第1希望）をどれだけ確保できるかがポイントである。少なくとも初日の受験者が募集人数の100名以上にならないと入学者100名を獲得することは難しくなることから、初日受験者の獲得に努力していきたい。

高校は各コースの学力に応じた層の生徒をほぼ獲得できていると評価している。特に文理進学コース志願者の学力向上、また特進コースの志願者の増加については本校への評価が高くなってきている表れではないかと考える。

ホームページなどを通じて情報を公開していることについては100%の評価を得ている。言うまでもなく今の時代受験生・保護者は圧倒的にホームページから情報収集していることが多い。本校の場合、ここでの評価は高いものの、他校のホームページを分析するところまでは出来ておらず、今後は他校を参考にしながら「見やすい」「分かりやすい」「伝わりやすい」ホームページを作っていきたい。

## VI. 総合評価と今後の改善方策

教育目標の「職業観の育成」に関しては、高校での系統的なキャリア教育「Josho Career-Up Challenge」や中学校の「総合サイエンス」が本校の特色教育として定着し、「職業観の育成」には順調な浸透が見られる。今年度は他校の視察が数件あり、キャリア教育の分野では全国区の知名度が出てきたようである。

「自主・自律の精神」については、進路目標に向けての自主学習、成果発表行事への意欲的な取り組み、ボランティア活動などに対する自発的な協力などが見られる。キャリア教育の発表会や文化祭での各発表会においては、生徒が自分たちで運営しようという姿が見られ、発表を見ている生徒の姿勢も大変向上した。また部活動のリーダーも順調に育っており、今後さらに発展する可能性を感じる。

今年度の重点目標は2つ掲げているが、いずれも私学の根幹となる特色教育に繋がるものとして重要であり、前述の評価項目全てに連動するもので、バランスの取れた評価が重点目標達成を支えている。

“「あいさつ・掃除・身だしなみ」の徹底”に関して、「あいさつ」や「掃除」の習慣はかなり定着しており、保護者や来校者からも評価を得ている。この2点の定着により、本校の生徒の質が大変改善された。生徒・教師は明るく元気であり、学校が活気に満ちた印象がある。また校舎は新しいだけでなく、掃除が行き届き、生徒もきちんと制服を着こなしているのも、大変清潔感に溢れている。結果、アンケートにおいては、No.1の「建学の精神・愛校心」（プラス71ポイント）、No.19「指導方針の一貫性」（プラス92ポイント）が高いことに反映されている。また別データであるが、高校生の満足度はここ6年間で21ポイントも上昇し、83.6%にまで達した。

“目的を持った進路選択と進学実績の向上”に関しては、難関大学への合格実績が大きく伸びていることから目標を達成していると言える。2年前の国公立大学の合格者数35名が今春の入試では65名に増加した。また関関同立といった難関私立大学も、2年前の123名から254名に増加している。しかし、内部進学制度や指定校推薦入試など学科試験を課さない入試を希望する生徒も多く、大学教育を受けるに必要な学力の定着はもちろんのこと、単なる大学選びではなく、将来を見据えた進路指導が望まれる。また国公立大学でも推薦入試やAO入試の枠が増加する一方で、21世紀型学力をどう育成していくか、今後の検討が必要である。また部活動と学業の両立を図りながら難関大学を志望する生徒も増加しており、それを支える教育体制の改善が求められる。いずれにしても早期からの進路指導に加え、教員個人の指導力のみには頼らない統一的な指導システムの確立、難関大学への進学指導の出来る教員のさらなる養成が必要と思われる。

評価の各項目について改善が進んだ項目も多く、人数分布では全33項目中32項目について60パーセント以上のプラス評価（評価B以上）があり、その内の25項目については80パーセント以上のプラス評価（評価A）であった。また、加重ポイントでは全33項目中26項目について400ポイント以上（評価B以上）で、その内の9項目については650ポイント以上（評価A）であった。総じて、数年間の取り組みを通じて全体の改善は着実に進んでいると判断する。

今回の評価結果に加え、将来を見据えた学校作りをめざし、今後の改善方策として次の内容に重点を置いて取り組みたい。

- 国際理解教育を推進しグローバル化をめざす。
- 地域との連携を全校的な活動として発展させ、ボランティア活動・広報活動を活性化する。
- 次年度のICT教育について、スムーズな導入を進める。
- 部活動と学業の両立をめざし、現行の教育体制の効率化を図る。

## 2015 年度 常翔学園高等学校自己評価

教育の目標	本校の教育理念を浸透させ、「自主・自律」の精神と幅広い「職業観」を養う。
今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あいさつ・掃除・身だしなみ」の徹底</li> <li>・目的を持った進路選択と進学実績の向上</li> </ul>

より良い学校作りのため、恐れ入りますが以下のアンケートにお答えください。  
 下記のそれぞれの評価項目について、1～4の評価のうちいずれか1つを教えてください。  
 回答は別途 URL を連絡しましたアンケートサイトの指示に従って記入してください。

## 調査 1 (基礎調査)

職 域	1. 専任教諭	2. 特任教諭	3. 事務職員	マークカード D欄の1・2 列目に記入してください。
本学園の勤務年数	1. 10年未満	2. 20年未満	3. 20年以上	

## 調査 2 (自己評価)

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

分類	評価項目	No	設問	評価 1つを選択する			
				1	2	3	4
学校運営に関する事	建学の精神・愛校心	1	建学の精神が教職員、生徒、保護者によく浸透し、在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	1	2	3	4
	中学校・高校の経営	2	中学校・高校の予算、決算の仕組みや財務状況を意識した学校運営をしている。	1	2	3	4
	学園の各組織	3	評議員会、理事会など、学園の各組織の役割や機能について理解している。	1	2	3	4
	教職員の連携	4	事務職を含む教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて業務が遂行されている。	1	2	3	4
	学校間連携	5	学園のスケールメリットを生かし、他の設置校と協力し、魅力ある学校作りを実施している。	1	2	3	4
	会議の有効性	6	必要かつ適切に会議が設定され、有効で効率的な議論が行われている。	1	2	3	4
	地域交流	7	地域の自治体や住民との交流ができています。	1	2	3	4
	授業等公開状況	8	保護者などに授業や発表会を公開する機会があり、積極的に広報されている。	1	2	3	4
	教員の資質向上	9	授業力向上のため、教員間で授業を公開し、教科会などで意見交換を行っている。	1	2	3	4
	初任者のサポート状況	10	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制が整備されてある。	1	2	3	4
	校内外の研修	11	校内外において、各教員が計画的、積極的に研修に参加し、教員間で情報を共有している。	1	2	3	4
	新しい教育への取り組み	12	ICT教育、アクティブ・ラーニング、キャリア教育など、新しい教育に学校全体で意欲的に取り組んでいる。	1	2	3	4
	読書推進	13	図書館の利用促進を図るなど、読書指導に取り組んでいる。	1	2	3	4

と 教務、 教科指導に 関すること	学習指導要領の対応状況	14	教育課程は学習指導要領に沿って編成されており、各教科のシラバスに反映している。	1	2	3	4
	学習指導	15	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	1	2	3	4
	人権教育	16	人権尊重に関する課題や指導方法を研究し、生徒の意識を高める教育を行っている。	1	2	3	4
	国際理解・交流	17	他国の歴史・文化を理解し、積極的に海外の人々や学校と交流をしている。	1	2	3	4
	スポーツ・芸術文化	18	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	1	2	3	4
生徒指導に 関すること	指導方針の一貫性	19	教員間や生徒の家庭とも連携し、統一した生徒指導を行っている。	1	2	3	4
	生徒会活動	20	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるように学校全体で支援している。	1	2	3	4
	学校行事	21	体育祭、文化祭などの学校行事を活発に行っている。	1	2	3	4
	ボランティア	22	地域の自治体や住民と連携し、ボランティア活動を活発に行っている。	1	2	3	4
	いじめ防止対策	23	生徒の細かな変化を教員間で共有し、いじめの早期発見、防止に努めている。	1	2	3	4
	環境問題	24	生徒に清掃、校内美化を取り組ませることによって、環境問題にも関心を持たせている。	1	2	3	4
	部活動	25	生徒が心身共に成長するように、積極的に部活動を推進している。	1	2	3	4
	情報モラル指導	26	SNS の利用に伴う責任等、情報のモラル面の教育に十分に取り組んでいる。	1	2	3	4
進路指導に 関すること	進路指導	27	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制を整備している。	1	2	3	4
	内部進学	28	学園内大学と連携し、多くの生徒が学園内大学に進学できるように指導に取り組んでいる。	1	2	3	4
保健室に 関すること	健康に関する指導	29	健康的な生活習慣をおくれるように指導している。	1	2	3	4
	カウンセリング体制	30	不登校生徒や特別な配慮が必要な生徒の情報を教員間で共有し、必要に応じてスクールカウンセラーを勧めている。	1	2	3	4
	危機管理への対応	31	防災訓練や AED 講習会を実施し、学校の安全対策に努めている。	1	2	3	4
募集活動に 関すること	入試業務	32	受験生の安定確保を維持し、各コースに応じた学力を持った生徒を獲得している。	1	2	3	4
	情報公開	33	学校ホームページなどを通して、本校の魅力や入試に関する情報を積極的に公開している。	1	2	3	4

ご協力ありがとうございました。

**アンケート期限： 1月30日（土）**

# 資料 2

## プラス評価の前年比較

### 評価指標

A	ほぼ達成	プラス評価 80%以上
B	概ね良好	プラス評価 60%以上
C	改善の余地あり	プラス評価 40%以上
D	不十分	プラス評価 40%未満

### 改善度(前年度評価Aを除く)

A	5%以上の上昇
B	0~5%の上昇
C	-5~0%の下降
D	-5% 以下

分類	評価の観点	No	評価項目	プラス評価の割合(%)			評価		
				前年度	2015年度	増減	前年度	2015年度	改善度
学校運営に関すること	建学の精神・愛校心	1	建学の精神が教職員、生徒、保護者によく浸透し、在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	89	91	2.3	A	A	--
	中学校・高校の経営	2	中学校・高校の予算、決算の仕組みや財務状況を意識した学校運営をしている。	83	90	6.6	A	A	--
	学園の各組織	3	評議員会、理事会など、学園の各組織の役割や機能について理解している。	68	69	0.7	B	B	B
	教職員の連携	4	事務職を含む教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて業務が遂行されている。	84	89	4.7	A	A	--
	学校間連携	5	学園のスケールメリットを生かし、他の設置校と協力し、魅力ある学校作りを実施している。	*	89	*	*	A	*
	会議の有効性	6	必要かつ適切に会議が設定され、有効で効率的な議論が行われている。	70	66	-3.9	B	B	C
	地域交流	7	地域の自治体や住民との交流ができています。	66	73	7.0	B	B	A
	授業等公開状況	8	保護者などに授業や発表会を公開する機会があり、積極的に広報されている。	94	98	4.3	A	A	--
	教員の資質向上	9	授業力向上のため、教員間で授業を公開し、教科会などで意見交換を行っている。	93	90	-3.4	A	A	--
	初任者のサポート状況	10	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制が整備されている。	57	50	-6.6	C	C	D
	校内外の研修	11	校内外において、各教員が計画的、積極的に研修に参加し、教員間で情報を共有している。	70	69	-1.3	B	B	C
	新しい教育への取り組み	12	ICT教育、アクティブ・ラーニング、キャリア教育など、新しい教育に学校全体で意欲的に取り組んでいる。	*	89	*	*	A	*
	読書推進	13	図書館の利用促進を図るなど、読書指導に取り組んでいる。	87	77	-10.5	A	B	--
教務 教科指導に関すること	学習指導要領の対応状況	14	教育課程は学習指導要領に沿って編成されており、各教科のシラバスに反映している。	93	90	-2.6	A	A	--
	学習指導	15	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	94	97	3.4	A	A	--
	人権教育	16	人権尊重に関する課題や指導方法を研究し、生徒の意識を高める教育を行っている。	83	83	-0.4	A	A	--
	国際理解・交流	17	他国の歴史・文化を理解し、積極的に海外の人々や学校と交流をしている。	76	90	14.4	B	A	A
スポーツ・芸術文化	18	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	88	93	5.0	A	A	--	
生徒指導に関すること	指導方針の一貫性	19	教員間や生徒の家庭とも連携し、統一した生徒指導を行っている。	83	92	9.2	A	A	--
	生徒会活動	20	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	82	84	2.3	A	A	--
	学校行事	21	体育祭、文化祭などの学校行事を活発に行っている。	92	98	6.3	A	A	--
	ボランティア	22	地域の自治体や住民と連携し、ボランティア活動を活発に行っている。	80	69	-11.3	A	B	--
	いじめ防止対策	23	生徒の細かな変化を教員間で共有し、いじめの早期発見、防止に努めている。	96	97	1.4	A	A	--
	環境問題	24	生徒に清掃、校内美化を取り組ませることによって、環境問題にも関心を持たせている。	70	77	7.4	B	B	A
	部活動	25	生徒が心身共に成長できるよう、積極的に部活動を推進している。	94	86	-7.9	A	A	--
に 進 路 指 導 に 関 連 す る こ と	情報モラル指導	26	SNSの利用に伴う責任等、情報のモラル面の教育に十分にに取り組んでいる。	80	80	0.0	A	A	--
	進路指導	27	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制を整備している。	85	95	9.8	A	A	--
保 健 室 に 関 連 す る こ と	内部進学	28	学園内大学と連携し、多くの生徒が学園内大学に進学できるよう指導に取り組んでいる。	*	87	*	*	A	*
	健康に関する指導	29	健康的な生活習慣をおくれるように指導している。	90	90	0.4	A	A	--
	カウンセリング体制	30	不登校生徒や特別な配慮が必要な生徒の情報を教員間で共有し、必要に応じてスクールカウンセラーを動めている。	75	98	23.3	B	A	A
に 募 集 し 活 動 す る こ と	危機管理への対応	31	防災訓練やAED講習会を実施し、学校の安全対策に努めている。	94	99	5.1	A	A	--
	入試業務	32	受験生の安定確保を維持し、各コースに応じた学力を持った生徒を獲得している。	*	95	*	*	A	*
	情報公開	33	学校ホームページなどを通して、本校の魅力や入試に関する情報を積極的に公開している。	98	100	2.0	A	A	--
平均				83.2	86.1	2.3			

\*は2015年度新規項目、黄色網掛けは昨年度の複数項目の平均



加重ポイントの前年比較

評価指標	
A ほぼ達成	加重ポイント 650以上
B 概ね良好	加重ポイント 400以上
C 改善の余地あり	加重ポイント 250以上
D 不十分	加重ポイント 250未満

改善度(前年度評価Aを除く)	
A 100以上の上昇	
B 50以上の上昇	
C 50未満の上昇	
D 下降	

分類	評価の観点	No	評価項目	加重ポイント			評価		
				前年度	2015年度	増減	前年度	2015年度	改善度
学校運営に関する こと	建学の精神・愛校心	1	建学の精神が教職員、生徒、保護者によく浸透し、在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	542	535	-7.2	B	B	D
	中学校・高校の経営	2	中学校・高校の予算、決算の仕組みや財務状況を意識した学校運営をしている。	463	552	89.2	B	B	B
	学園の各組織	3	評議員会、理事会など、学園の各組織の役割や機能について理解している。	242	261	18.9	D	C	C
	教職員の連携	4	事務職を含む教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて業務が遂行されている。	475	552	77.2	B	B	B
	学校間連携	5	学園のスケールメリットを生かし、他の設置校と協力し、魅力ある学校作りを実施している。	*	574	*	*	B	*
	会議の有効性	6	必要かつ適切に会議が設定され、有効で効率的な議論が行われている。	283	482	198.7	C	B	A
	地域交流	7	地域の自治体や住民との交流ができています。	250	313	63.0	C	C	B
	授業等公開状況	8	保護者などに授業や発表会を公開する機会があり、積極的に広報されている。	725	748	22.8	A	A	---
	教員の資質向上	9	授業力向上のため、教員間で授業を公開し、教科会などで意見交換を行っている。	638	591	-46.7	B	B	D
	初任者のサポート状況	10	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制が整備されている。	125	22	-103.3	D	D	D
	校内外の研修	11	校内外において、各教員が計画的、積極的に研修に参加し、教員間で情報を共有している。	284	300	16.0	C	C	C
	新しい教育への取り組み	12	ICT教育、アクティブ・ラーニング、キャリア教育など、新しい教育に学校全体で意欲的に取り組んでいる。	*	570	*	*	B	*
	読書推進	13	図書館の利用促進を図るなど、読書指導に取り組んでいる。	550	404	-145.7	B	B	D
教務、教科指導に関する こと	学習指導要領の対応状況	14	教育課程は学習指導要領に沿って編成されており、各教科のシラバスに反映している。	811	661	-150.1	A	A	---
	学習指導	15	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	658	730	72.4	A	A	---
	人権教育	16	人権尊重に関する課題や指導方法を研究し、生徒の意識を高める教育を行っている。	458	465	7.2	B	B	C
	国際理解・交流	17	他国の歴史・文化を理解し、積極的に海外の人々や学校と交流をしている。	363	604	241.3	C	B	A
	スポーツ・芸術文化	18	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	625	687	62.0	B	A	B
生徒指導に関する こと	指導方針の一貫性	19	教員間や生徒の家庭とも連携し、統一した生徒指導を行っている。	500	613	113.0	B	B	A
	生徒会活動	20	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	417	487	70.0	B	B	B
	学校行事	21	体育祭、文化祭などの学校行事を活発に行っている。	725	826	101.1	A	A	---
	ボランティア	22	地域の自治体や住民と連携し、ボランティア活動を活発に行っている。	425	283	-142.4	B	C	D
	いじめ防止対策	23	生徒の細かな変化を教員間で共有し、いじめの早期発見、防止に努めている。	721	730	9.4	A	A	---
	環境問題	24	生徒に清掃、校内美化を取り組ませることによって、環境問題にも関心を持たせている。	298	404	106.3	C	B	A
	部活動	25	生徒が心身共に成長するよう、積極的に部活動を推進している。	775	587	-188.0	A	B	---
進路指導に関する こと	情報モラル指導	26	SNSの利用に伴う責任等、情報のモラル面の教育に十分に取り組んでいる。	471	409	-62.3	B	B	D
	進路指導	27	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制を整備している。	525	683	157.6	B	A	A
保健室に関する こと	内部進学	28	学園内大学と連携し、多くの生徒が学園内大学に進学できるよう指導に取り組んでいる。	*	539	*	*	B	*
	健康に関する指導	29	健康的な生活習慣をおくれるように指導している。	583	617	34.4	B	B	C
	カウンセリング体制	30	不登校生徒や特別な配慮が必要な生徒の情報を教員間で共有し、必要に応じてスクールカウンセラーを働かせている。	313	791	478.3	C	A	A
募集活動に関する こと	危機管理への対応	31	防災訓練やAED講習会を実施し、学校の安全対策に努めている。	692	796	103.7	A	A	---
	入試業務	32	受験生の安定確保を維持し、各コースに応じた学力を持った生徒を獲得している。	*	678	*	*	A	*
	情報公開	33	学校ホームページなどを通して、本校の魅力や入試に関する情報を積極的に公開している。	846	874	27.9	A	A	---
平均				509.8	556.6	42.2			

\*は2015年度新規項目、黄色網掛けは昨年度の複数項目の平均